

HSK ☆ いちばんぼし

HSK 通巻 97 号

昭和 48 年 1 月 13 日 第 3 種 郵便物 認可

昭和 55 年 5 月 10 日 発行 (毎月 10 日)

全国 膠原病友の会 北海道 支部

いちばんぼし 第 36

も く じ

1980. 5. 10

支部だより



ごぶさたしました……………	2
おしゃべりしませんか……………	2
お便りコーナー……………	3~9
55年度難連理事と相談員のお知らせ……………	10
第6回支部総会のお知らせ……………	10
事務局からのお知らせ……………	11
54年度決算報告書……………	13
55年度予算書……………	14
合同レクリエーションのお知らせ……………	15

恋人よりやさしいあなたへ

なぜそんなにやさしいのですか？

恋人でもないのに

なぜそんなにみつめるのですか？

気まぐれですか？

同情ですか？

それとも、からかっているのですか

わたしの心を見とおすように

淋しい時にふりかえると

いつもあなたがいて

恋人よりもっとやさしいあなたがいて

わたしはいつもそのやさしさが欲しくなる

あなたに少し甘えてみたくなって

あなた以外はひとみに映らなくなってしま

もうこれ以上 わたしに近づかないでくだ

さい。

(原田彰・SLE十八才・アフターケア
入所)

「ごぶさたしました」

寺嶋 礼子

会員のみなさん、久しくごぶさたしておりますがいかががお過し
ですか？

ハッと気がつくと、今号が今年初めての「いちばんほし」なん
ですね。

なんとも申し訳ありません。

言い訳になってしまいますが、新年早々、これでもか、これでも
かと言う程、カゼにたたられ数年ぶりに発熱、すっかり参ってし
まいました。何しろ私の仕事は休めない仕事ですので（英語塾教
師）、病身で仕事を続けていく辛さをイヤという程味わされまし
た。四月から授業時間が増え、帰宅時間も毎日八時過ぎ、身体は
クタクタで家事のほとんどは母に頼んでいる有様です。でも仕事
は、おもしろく、身体がつづく限り、がんばりたいと思います。

それにしても強皮症の症状が目に見えて悪化しているので、い
つまで働けるのかなと不安におちいることも、しばしばあります。
不死身？と思われる私もこの春トコトン痛めつけられ、家庭と
仕事と『友の会』と欲ばってみても結局何もかもが中途はんばに
なることを恐れ、一時は、機関紙の休刊も考えました。でも、そ
んな訳にもいかず、いろいろ考えた末、清野和子さんと渡辺愛子
さんに機関紙編集をバトンタッチしてもらおうようお願いしました。

「いちばんほし」をリフレッシュする意味でもこのお二人に期待
したいと思います。どうかみなさん。暖かいご支援をお願い致し
ます。

お茶をのみなから

おしゃべりをしませんか

花便りの聞れる今日このごろ、会員の皆さまには、いかがおす
ごしてでしょうか。

長く寒い北海道の冬もやっと終り、黒い土が顔を出し、すいせん
やチューリップの小さな芽が春の訪れを感じさせてくれます。

この冬を元気にのりこえた方、又入院中のベッドの上で春を迎
えた方、それぞれちがいはあっても、やっぱり春は良いですね。
すべての生き物が活動を始める季節です。この季節、お茶をのみ
お菓子をつまみながらの「集い」をもちませんか。現在北海道支
部の会員数は九五名、その内、札幌市内の会員数は三七名と $\frac{1}{3}$ 以
上を占めています。この冬をどのようにのりきったか、そしてや
がて来る、苦手を夏をどのようにして快適にすごすか、など情報
を交換しませんか。札幌を初めにして、旭川、帯広、函館なども
予定しています。

とりあえず札幌は六月二十二日（日）、旭川は七月二〇日（日）に
予定しています。会場、時間はのちほどご連絡します。お逢いで
きるのを楽しみにしています。（は）

お便りコーナー

木村 律子(雨竜郡)

昨年十二月十六日、難病連主催で開かれたクリスマスパーティーに初めて参加しました。ちょうど札幌にいる妹の所に遊びに行っている時だったので、出かけてみようと思ったのですが、地方から直接行くのでは、ちょっと無理だったかもしれませんが、

私は今、勤めていないし、人との交流もあまりなく、多勢人が集まる場所に出る機会もないので、たまに皆さんと楽しむのも良いのではないかしら、と思い切って出かけてみました。どんな催しなのかなーと、ちょっぴり不安を混じえて会場へ着いたのですが、余りに沢山の人が集っていたので、びっくりしました。

長谷川さんの案内で友の会のテーブルにつき、皆さんとおしゃべりをし、歌を聞いたり、踊りを見ながら楽しく過ごしました。帰りにはおみやげも載せ、大変家族的で、大人も子供も楽しめるファミリーパーティーという気がしました。あれだけ盛大なパーティーが開かれたのも、難病連事務局の皆様をはじめ、裏で沢山の人の親切な協力があつたからこそ、と感謝しております。

最近の私の体調は、相変わらずパツとせず、背中がぞくぞくと寒けがして、身体が痛く、いつも風邪をひいているみたいです。でも四十八年の退院以来、なんとか入院もせずいられたのは、勤めないうちで家にいて好きな事をしながら、疲れた時には横になり

割と自由にコントロール出来得たからだと思つてます。以前は勤めたりすると、無理を重ねて必ず入院でした。そんな事を三度も繰り返したので体力的に無理とわかり、今は職につくことを諦めています。でも、そう思いながら、いつも働きたいし、一人前に結婚もしたい(相手もいないのになあ)と夢の様な事を考えています。だから事務局の長谷川さん達の様に自立して、会員の皆さんの為に一生懸命働いたり、寺嶋さんのように結婚して立派に生活している人達、赤ちゃんを無事出産した人達など、皆さん方の存在は大いに励みになります。皆が皆、その様になるとは、限らないけれど、一つの大きな目標や、希望になります。大変な事と思いますが頑張つて下さい。病気になるっぱかりの頃は「なぜこんな辛い目にあうのだろう」と自分の運命を嘆き、悲しみ、いつまでたっても治らない病気に死んだ方がいいと何度も思いました。でも、今はそれも遠い過去の出来事になりました。辛くても悲しくても生きていけばこそいつかは楽しい出来事にめぐり逢える、死んでしまえば苦しみから逃れるけれど病気に負けた事にもなりません。何十年も闘つて暮らしてゆくうちに適当に身体をなだめすかす事も覚え、どうか自分なりに頑張っています。大きな苦しみの後には大きな幸せが訪れると信じてなかなかやって来ない幸せにしびれを切らして、待ちくたびれた現在、幸せ、不幸せは、自分の心の中にあるものだなーと思うようになりました。私には難しい事なのだけれど自分の手で幸せをつかむ努力をしなければと思つてます。私が

この様に家にいながら、気ままに暮らしてゆけるのも親や兄弟達が病気を理解して何も言わず、そっと見守ってくれるからです。本当に有りがたく幸せだと思っています。いつまでも母達に甘えてはいけなれないと思いつながら自立も出来ず、結婚もせず、皆に負担をかけている事が今、とても辛い事です。早く元気で健康になる事が母達への恩返しなので頑張らなければと思っています。同じ病気をかかえていても、人それぞれの立場や環境で悩み、苦しみは違うものです。皆様、お互いにくじけず、マイペースでゆっくりと、しっかりと自分の道を歩いて行きましょう。

「この一年間を振り返って」

小寺 千明（札幌市）

この一年間は、私にとって忙しいあっという間の月日でした。医療事務を勉強し、初めて働いて初めてお金を貰った時は、本当に嬉しく、今でも忘れられません。でも働く厳しさ、そして働いてお金をもらうことの難しさを知りました。

そして五月、私のおばあちゃんが、亡くなりました。八八歳の高齢で、脳腫瘍で倒れるまでは、特に大きな病気もせず本当に元気でした。六人いる孫の中で私だけが病気をして苦しんでいるのを見ては、「かわいそうだ」と、口癖の様に言っていました。

そして私が半年ほど入院していた時、めったに外出することのないおばあちゃんが、私にお守りをあげたいとわざわざ御見舞に来

てくれました。その時は、本当に嬉しく、おばあちゃんの手を握って思わず泣いてしまいました。

八月アルバイト先で、あるおじいちゃんを知り会いました。

初め、一度会ってお話したいと言われ、友達といっしょに三人で逢い、それ以来時々逢っておじいちゃんの話聞いてあげられる様になりました。おじいちゃんは、逢っておしゃべりをするだけで楽しく、十年は若返ったといつも言います。今は、真白な紙から日本全国の地図を作製する仕事をしていて、その仕事をしていてもはりがあり、生きていて良かったと思うそうです。

私もそれだけのことでおじいちゃんに喜んでもらえるなら、これからもずっと時々逢って話し相手になってあげようと思っています。

そして今年の一月、ついに念願かなってアルバイトから本就職することができました。いくつか面接に行つて、病気のことを話しては断わられ、今度もダメかと思つていたところへ、就職決定の話がきた時は、試験に合格した様な喜びでいっぱいでした。

アルバイトと違って簡単に休むことはできず、仕事に対する責任も重いの、たいへんですが、それだけに毎日の生活にはりができて、今はこの仕事で出来る限り頑張ってみようと思つています。去年の七月以来、四季折々書き続けてきた誕生カードの発送もあと三カ月を残すところとなりました。

最初この誕生カードの発送を引き受けた時、はつきり言つて一年間続けられるだろうかという不安がありました。

多い時は、一カ月に十人以上も誕生日の人がいて、毎日の様に書く日が続いたり、気がつくともう誕生日が過ぎていて、慌てて夜寝る前に布団の中で書いたりすることもありました。ですから何度かもう辞めたいと思うことがありました。

そういう中でこうして続けてこられたのは、会員の皆さんからの心暖まるお手紙、お電話を頂いたからです。頂く度に、本当に嬉しく引き受けて良かったと思ひ、辞めたいと思つたことが、恥かしく思われたりしました。

この誕生カードの発送は、私自身にやりとげたという満足感とやればできるといふ自信を与えてくれました。ですからこの場を貸りて改めて、お礼や喜び励ましのお手紙、お電話を下さつた会員の皆さんに心からお礼を申し上げたいと思います。

思いつくままに長々と述べてきましたが、この一年間は、私にとって本当に忘れられない一年となりました。悲しいこともありました。それにも増して色々な事を知り、又経験しました。何度か病気の憎悪かと思われる熱に悩まされたこともありましたが、なんとか入院もせず乗り越えることができました。この経験も私にとつては、病気を深く知り得たという意味で貴重なものです。これからも病気との闘いは続きますが、病気に對する注意は怠たらずに今までの経験や知識を大切に、それを生かして出来る限り社会に参加していきたいと思つています。そしてさらに健康な人には味わえない、健康な体では及びもつかない様な人生を歩んでゆきたいと思ひます。

芳賀悦子(札幌市)

思いがけない誕生カード(実は生まれて初めていただきました)と、お便りを、又、読み返したところです。ありがとうございます。

女学生の頃(戦時中でしたが)「あなたの誕生日の花言葉は、落葉よ。」と学友におしえられたことがありました。その時の花言葉が、美しい、やさしいお花ではない意外さが、一寸言葉にならぬ程、急速に不安な思いに変わっていったのも、病弱なせいもあつたのでしょう。

あれから三十数年、「落葉」から、けんらんとした美しさや、あたたかななぐさめをイメージするようになるまで、病気で生かしてもらえた嬉しさをしみじみ感じているこの頃です。私は一つのことをわかるのに時間がかかるたちのようです。私が生命だということ、一人々々が生命だということがやっとわかつてきました。生きたいと考えています。

荒尾 みや子(帯広市)

運営委員のみな様お元気ですか?

先日は心のこもつた誕生カードをどうもありがとうございました。こんな私でもみな様の仲間に入れていただいているんだなあとあらためて実感し嬉しく思つています。「高原の友」という文字を見た時、なんだか病気だなんていうことは消えて私のまわりの友

だちとは別のいろいろな事をわかってもらえらる友だちができたよ
うで、とても心強く思いました。文字を変えただけでこんないい
ひびきになるんですね。

最近二度程熱を出して寝込みました。でも自分でも驚くほど快
復が早いです。それもみな病院の先生や家族のおかげです。

熱が出れば母が一晩中看病してくれ、お嫁に行った姉まで、勤
めを終えた夜中に来てくれます。とてもよい先生なので安心して
いられるし、本当に恵まれています。

今はとても元気でアルバイトをしているんですよ。今の仕事で
体を慣らしてなにかやってみたいと思っています。人並みのことは
できないのだからあまりえらそうなことは言えないけれど、少し
でも人の役に立てる仕事ができれば幸せだなと考えてます。ずつ
と前からある考えを暖めているのですがなかなか実行までにはた
どりつけそうもありません。家族の心配もわかるし、自分の好き
なことをするだけでは、結局人に迷惑をかけることになるのわか
ら、まわりの人に迷惑をかけないよう、自分でも納得のいく一番
よい方法を早くみつけようと思っています。この病気になるってまだ
日は浅いのですが、やはりいろいろな事がありますね。農家の娘
でありながら家の手伝いが出来ない事とか、自分なりに一生けん
めいしているつもりでも怠けているように見られたり、病気のこ
とはあまり口にしたくないので友だちにも相談できないし、まあ
しようがないなあときらめるしかないみたい。

イライラして両親や兄にあたることもしばしばあります。そん

なことをなくすためにも自分がうち込める何かを早く見つけたい
です。

いろいろご相談にのっていただくこともありますが今後ともよ
ろしくお願い致します。

小寺さん、お誕生カード大切にします。

どうぞみな様お身体お大切に。

三 谷 真千子(深川市)

先日は、誕生カードありがとうございました。いただいてびっ
くりしました。

二十七才にもなってカードをもらうと嬉しいものですね。

私も結婚して一年、どうにか過ごして参りました。はじめは何
をどうしていいのかわからず、てんてこまいだったんですけど主
人様がどうか助けてくれ、一年が過ぎました。

今でもそうですが、水仕事をするとき今まで痛くない所まで痛く
なり手ははれたりして、それでもお弁当を作らなければならず、
時間のかかる分を早く起きて主人様を送り出しています。指や関
節が痛い時は、主人様を手伝ってくれます。体が自由にならない
時は辛いけどがんばってやっています。結婚前は、家庭に入って
も何にも出来ないと思って尻込みしていたんですけど、こういう
病気で結婚して幸せにやれるから好きな人、病気を理解してく
れ、助けてくれる人がいたら、迷わず結婚してもいいんじゃない
かしら。私ひとり幸せにひたっているのも悪いみたいです。

今はもう主人様と二人で夜でも昼でもひまさえあればドライブに行っています。

外の空気もいいですよ。これから主人様がバトミントンを教えてくれるそうです。

それでは今日はこの辺で。

坂部 克江（札幌市）

今年の冬は暖冬と伝えられておりましたが、例年よりも雪が多く、春の訪れが遠く感じられますが、友の会の皆様はお元気でしょうか？ 又、今年の冬は、悪性の風邪が流行しているようですが、どうですか？ 風邪をひいて病気の引き金にならないよう御注意下さい。

私も発病以来六年目を迎え、これまでにかかった主な病気も肝臓、糖尿病、結核、十二指腸潰瘍、尿管結石と、病気の問屋のように色々な病気をしました。これも薬の副作用とのことでありました。

発病当時は子供も小さく、（六才と四才の女の子）自分の病気の心配もありましたが、家に残した子供の心配の方が多くありました。幸い姑、私の母親にと、子供の面倒を頼み、結果的には安心して入院生活を送ることができました。

今では退院して五年にもなりますが、お陰様で今では子供にも手がかからなくなり、家庭で内職ができるようになりました。内職といっても既製服を縫うだけの仕事です。これ程まで元気に回復

し、内職までできるようになったのも周りの暖いお世話があったお陰だと今は感謝でいっぱいです。

現在、薬の量も一週間に三日飲んで四日休むという飲み方で十五mgの服用だけですんでおり、病気の方は落ち着いているようです。友の会の皆様の場合はいかがでしょう？ 八月には友の会の総会があります。その時には皆様とお会いして近況を話し合います。それまで体の状態を万全に整えて、一人でも多くの人が出席なさいますようお願いしております。

小林 智子（函館市）

春もまじかになりましたが、その後お変わりございませんか？ 二月の中頃より調子良かったのですが、風邪をひいてしまったついにダウンしてしまいました。やはり私たちの病気には風邪がいちばん恐いんですね。熱は出るし、関節痛はひどくなるし、苦しかったです。低カリウム血症をおこしてしまい、身体がだるくて、自分でコントロールするのがせいっぱいです。

今は大分良くなりましたが、医師の話ではまだまだカリウム不足だから果物を沢山食べなければ薬だけでは治らない、と言われたので一生懸命食べています。四月中に退院を予定していたのですが、無理といわれてがっかりしました。でも考えると早く治して自宅療養にもっていく事ができるなら、それにこしたことはないと思っただけで夏頃まで伸ばしました。

いつも会のお世話ありがとうございます。私も早く良くなって

お手伝いしたいと思つてます。

渡 辺 愛 子 (札幌市)

今年は例年より雪も少なく助かりましたが我々病人にとっては厳しい時期も去り、皆様もホッとしていると思ひます。私事で恐縮ですが、昨年は発病以来初めて九ヶ月の長期入院し、二つもの病名がついてしまいました。

二月の猛吹雪の日入院、そして退院日前夜は初雪が降るといふ雪から雪への長旅でした。二・三ヶ月で退院出来るつもりで軽い気持ちでバック一つ抱え病院へ……しかし甘かったのでしょうか、一見丈夫そうな身体、全ての事は自分でできていても検査の結果はかなりの異常を示していたのです。四季の始んどを病室にといろのはいささかあきてしまいますが、何かとお世話になり訪ねて来てくれていた同じ友の会の清野さんも調子悪しという事で入院彼女も長くその後、約七ヶ月程、隣のベットで行動を共にし喜怒哀楽をわかち合い、年令も近いということもあり、何から何まで気持ちの全てを言えた事で割とクシユンとするともなく入院生活を送る事が出来ました。きつと彼女がいなかったら精神的にかなり参っていたと思ひます。幸い、子供の心配はないものの、主人には計り知れない程、苦勞させてしまい、その分これから一生懸命でありたいと思つています。病人と言つても特にこれといった規制は幸いになく、薬のせいによく食べ、よく寝の繰り返し、今思えば、一体九ヶ月間何か残ることもしたのかしらと思ひま

す。一日も早く病気をよくするのが第一の目的ですが、外科と違いスローテンポで苟立ちました。形として何も残つてはいないけど、入替わる同室の人達から教えられることがたくさんあり、良い先輩ができたことが唯一の収穫です。勉強になったといえは聞こえはいいですが、入院生活の中の何分の一かはプラスになったのではと思つていますが、人間って勝手なもので元氣さを取戻してくると、遂々我ままになつてしまい、あとで反省すること度々です。一時は昔のように普通に歩けるかしら、家事は出来るかしらと薬の副作用よりこの方が心配でしたが、今は除々に筋力もつき、春とともに心ウキウキしていますが油断は禁物です。ただ治りきると言えない現状、またいつかは入院するのだろうかという夢のない思ひは消えませんが、一日でも多く我家の長期滞在をのばし新米主婦業に専念し続けられたら最高と思つています。家に居られるということだけでも病氣をもつてしまった者にとつては伴せじやないでしょうか。身体は飛びはねなくとも心の充実、そんな日々を送り続けたいですね。

こんな訳で何とか元氣になつてきたので今年清野女史と少々お手伝してみようという氣なんですすがなかなか頭には楽しいアイデアも浮かばず、人工衛生のように空回りするのみ、ペンももつたまま動かず、惨めさを感じつつもどうかなるでしよう主義で氣張らずやってみたいと思ひますので皆さんからの日常茶飯事のお便り待っています。(SLE、皮膚筋炎)

清野 和子 (札幌市)

おと年入院した時、膠原病の人に会って見たいな一と思つたところ、友の会がある事を知って入会しました。その年の総会で渡辺愛子さんに会いました。

去年、愛子さんが入院する日、偶然、受診に行つていたので荷物番をしていました。そのうち私も入院してしまつたのです。

それから半年以上、同じ病室で同じ釜の飯を喰つて……という生活になりました。難病棟難病室という名前をつけた病室に二人の他はリウマチの方が主に入つてました。でも何といつても長期になつてくると、だんだん二人が主の様になつてしまいました。

ステロイドを大量に飲まされて二人共、丸々顔。朝は夜明け前から目が覚め、喫煙室を開けて、早々とコーヒーを飲みながら行動開始です。おしゃべりしながら編み物をしたり竹細工をやつたり。何しろトイレ以外は、いつも一緒なので、双児だと言つたら本気にした人もいました。夜は夜で、調子が良くなつてきてから、自主トレーニングに通いました。筋炎の愛子さんはリハビリが必要。蛋白の出ている私は、できるだけ大人しくしていなさいと言われてたのですが、初めの頃、階段を一步も上がれない愛子さんの総監督のつもりが、ついつい一緒に自主トレーニング。そのうち生協まで外出許可が出て横断歩道を一回の信号で渡りきれない彼女を押したりひっぱたりしながら行つたりもしました。こつそり途中で着がえて、お忍びで喫茶店へも行ききました。今考える

と、ステロイドのムーンフェイスでよく恥しくもなく行つたものだと思います。

私の方が年上なのに、家族の事などで泣いたりオタオタしたりしながらも、楽しく過ごせたのは、落ち着いてドンとかまえた愛子さんが居たおかげです。もし一人だったら膠原病の本はきつとポロポロになつていたでしょう。

退院して五ヶ月、今は本を開くこともなく、愛子さんをさそつて買い物に歩き回つてます。通院も二人でなきや、どうしたのと聞かれます。もちろん彼女もさつさ、さつさと歩き回れる様になりました。デパートでのリハビリがきいたのかもしれない。

今となると何か楽しい思い出の様に感じてしまいます。でも決してそうでなかつた事、主人と子供に不自由な思いをさせた事、いろいろな人に助けられた事等忘れずに入院などなるべくしない様慎重に生活していかなくてはと、思っています。



事務局からのお知らせ

五十五年度の難病連理事と相談員のお知らせ

現在、北海道難病連には、二十の加盟団体があり、「なんれん」の裏表紙に詳しく載っています。各加盟団体から二名ずつ理事を選出し、理事会その他の会議に出席しています。又、友の会道支部には、札幌、旭川、帯広、函館の四地区にそれぞれ次の方々に相談員としてお願いしておりますので、ご利用ください。相談を受ける方も病人ですの、その点ご配慮ください。

相談員の電話番号

- | | |
|------|-------------------|
| 札幌地区 | 長谷川 道子 (二六一一八〇二六) |
| 旭川地区 | 岸 本 貢 (三三三三四七) |
| 帯広地区 | 藤 田 浩子 (四八一四三七七) |
| 函館地区 | 秋 元 清美 (四三一六一七六) |

理事

- | |
|------------------------------------|
| 寺 嶋 礼子 (今年も又お願いします) |
| 清 野 和子 (一児のママ。お忙しいところを無理にお願いしました。) |

第六回支部総会のお知らせ

今年も一泊二日の総会を予定しています。八月二日、三日と郵便貯金会館を予約いたしました。今年、親睦を深めることと、医療講演会、相談会に大きく時間をとりたいと思っています。会員の皆さんの御希望・御意見をお寄せ下さい。多くの人の参加できる会にしましょう。(は)

第六回支部総会

八月二日(土) 三日(日)

札幌郵便貯金会館にて

札幌市中央区南一西二六

電話 六四二一四三二一



ご逝去のお知らせ

一昨年から今年にかけて何人かの仲間を失いましたが、それを受けとめる会員ひとりひとりのショックを思うとお知らせすることができませんでした。しかし現役員、元役員の場合はお知らせすべきであると考えます。

恵庭市の中川澄子さん(四十三才・S L E)は昨年十一月北大病院にて亡くなられました。支部発足以来の古い会員で四年間の永い間役員をひきうけて下さいました。いつも明るくお元気でしたのに、改めてこの病気の恐しさを見る思いが致します。ご冥福を心よりお祈りします。

尚、ご主人の中川蒼様とお兄様の水上様より、友の会に五万円のご寄付を戴きました。

紙面を借りてあつく御礼申し上げます。

この様な悲しいお知らせはみなさんを動揺させると思いますが、無理せず一日一日を大切に生きることがご遺族のお気持ちに報いることになると思います。(て)

会費納入の方法が変わります

現在、膠原病友の会は年間三、〇〇〇円の会費で会の運営をしています。三、〇〇〇円の内訳は、本部へ一、四〇〇円、支部へ一、六〇〇円となっています。ひとり一人の会員から納められた会費は「機関紙の発行」「医療講演会」などに使われ、とても大切な財源となっています。今まではバラバラに納めていた方がいましたが、事務整理の都合上、前期(四月/九月に納めていた方)は五月に、後期(一〇月/三月に納めていた方)は一〇月に納めて下さるよう、お願いいたします。支部事務局にてまとめて本部へ納入します。

尚、不明な点がありましたら、お問い合わせ下さい。(は)

○ 御寄付いただきました

中川	誉	様	四〇、〇〇〇円
水上	幸	水	一〇、〇〇〇円
伊藤	加	代子	五、〇〇〇円
清野	和	子	一、〇〇〇円
秋元	清	美	二、〇〇〇円
坂部	克	江	三、五〇〇円
		様	

○ 住所の変わった方々

田中順子
源間洋子
小寺千明

住所の変わった方は、支部事務局までお知らせ下さい。

秋元清美様 三、〇〇〇円
岡林高男様 四、八四〇円
山崎あき様 五、〇〇〇円
木村律子様 二、〇〇〇円
小川陽様 一、〇〇〇円

ありがとうございました。

○ 新入会員

江藤ナル子さん 札幌市中央区

(膠原病)

どうぞよろしく。

○ 入院している方

佐々木朱美さん

北大病院第二内科



昭和54年度決算報告書

収入の部

(自54年4月1日 至55年3月31日)

配分交付金(道)	826,520	難病連より交付金
本部助成金	67,000	1,000円×67名
支部会費	42,600	600円×71名
寄付金	169,940	
文集収入	4,000	500円×8
雑収入	303	
事業収益	21,412	難病連より還元金
"	65,250	シャンプー売上利益
	1,197,025	

支出の部

会議費	41,010	役員会、支部長会議他
医療相談会	202,187	総会、講演会、相談会
相談員補助	64,820	相談員の電話代、交通費他
機関紙発行	121,791	
共同事業費	151,605	難病連へ
研修・資料費	14,830	慶弔費他バースデイカード
活動費	52,410	
通信費	15,957	
加盟分担金	240,000	難病連へ
HSK "	2,000	
交通費	6,030	
雑費	9,845	
次期繰越金	274,540	中央会議費引当金
	1,197,025	

繰越金内訳

現金	301,895	預り金	2,400
郵便振替	29,775	前期繰越金	161,507
預金	231,777	当期剰余金	274,540
未収金	83,600		
	438,447		438,447

会計監査報告

昭和54年度における膠原病友の会の会計を、全般に亘り帳簿と領収証を照合して監査の結果、適正であることを報告いたします。

会計監査 谷 口 啓 子 印

昭和55年度予算書

収入の部

(自55年4月1日 至56年3月31日)

配分交付金(道)	1,000,000	
本部助成金	90,000	
支部会費	54,000	
寄付金	75,460	
事業収益	70,000	
前期繰越金	274,540	(中央会議費引当分)
	1,564,000	

支出の部

難病連参加費	10,000	
役員会費	30,000	
中央会議費	400,000	
加盟分担金	242,000	
交通費	10,000	
通信費	20,000	
雑費	15,000	
医療相談会	212,000	
医療講演会	100,000	
相談員補助	100,000	
機関紙費	150,000	
パンフレット 印刷費	200,000	
研修資料費	15,000	
活動費	60,000	
	1,564,000	

第四回合同レクリエーションのお知らせ

毎年好評の合同レクを七月六日(日)道立真駒内公園(昨年と同じ)で開催する予定です。私たちの会では例年参加者が少ないのですが、戸外のさわやかな風にふれるのも気持ちのよいものです。日光アレルギーの心配な方のためにテントも用意しております。六月上旬発行の「なんねん」の中で、詳しくお知らせします。又、その中に合同レク参加申し込み書のハガキも同封する予定です。

多くの方が参加できますようお待ちしております。



ナイーブな素肌との出会い

パパール〈ナイーブ〉エッセンスクリームは、パパイヤエキスをはじめお肌に自然なうらおいと栄養を与える高級原料を配合した、油分や香料の少ないナイーブなクリームです。健康な素肌の美しさをお求めの方、お肌の弱い方におすすめします。

パパール(ナイーブ)エッセンスクリーム
(弱油性栄養クリーム) NET.36g ¥ 2,700

今年の夏の夜空に 難病連の花火セットを!!

中国花火ファミリーセット 職場へ、町内へ、組合へ
夕映え(大)特価¥1,000 おすすめ下さい。
ちびっこファミリーセット
夕映え(小)特価¥ 600

使って良い品
大キャンペーン中
海藻エキス入り
クリームシャンプー
難病連がおすすめします
特価 550円
2本セット、健康ブラシ
セットもあります。

お申し込みは、友の会支部事務局まで!

TEL 261-8026

あとがき

名のみの春という感じですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。今年初めての「いちばん星」をやっと発刊することができました。

去年の今頃、病室の窓から春をながめていた二人が、今年はどうしてお手伝いできる様になりました。

友の会の親交を深めるためにはとても手の回る状態ではありません。どうか皆様と御一緒に、会を憩いの場にできる様にしたいと思っております。

お便り、御意見、御質問等、ぜひお寄せ下さい。皆のための「いちばん星」をいっぱい出したいと思しますので……。

清野
渡辺

あなたの支部会費は 年 月まで納入されています

編集人 全国膠原病友の会北海道支部

札幌市中央区大通9丁目 協栄生命ビル九階
北海道難病連内 ☎060 ☎(011)261-8026

発行人 北海道身体障害者団体定期刊行物協会

札幌市中央区北1条東4丁目 本間 武司

昭和48年1月13日第3種郵便物認可 HSK通巻97号 ¥100

いちばんぼし No.36 昭和55年5月10日発行(毎月1回10日発行)